

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191400104		
法人名	社会福祉法人 赤碕福祉会		
事業所名	グループホームはなみ		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町赤碕1078番地7		
自己評価作成日	令和8年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3191400104-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和8年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、「その人が幸せと感じる暮らしをいつまでも」を理念とし、理念に沿ったケアを実践している。今年度は理念の振り返りを行い、出た意見をケアに反映させている。引き続き感染症対策を行い、5月藤寺、6月、10月の2回、認知症カフェを開催した。支援学校の生徒さんと交流もでき、気分転換が図れ、地域の方にもホームに来て頂くことができた。多職種連携に力を入れており、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士の意見を踏まえながら質の高いサービスの提供に努めている。また、毎月のユニット会にて利用者の細かな変化を情報共有し、認知症ケアを実践するなど利用者のケアについて細かく見直しを行い、個別ケアの充実を図っている。また、7月より特定技能外国人を受け入れ1名のミャンマー人の方が働いておられる。

職員で考えられたホームの理念「その人が幸せと感じる暮らしをいつまでも」に基づいたケアの実践に向け取り組まれています。加えて毎月の接遇目標も決められ、振り返りが行われ、利用者ファーストの考えで支援に取り組まれています。6月・10月の2回認知症カフェも開催され、近隣の支援学校の高校生との交流も図られました。食事は3食手作りで提供し、家庭と同様に食事のできる匂いや音も感じられます。月に1回出前を取るなど、食べる楽しみ、意欲に繋がるよう支援されています。食事の盛り付け、後片付けなど、利用者と一緒に行われており、畑でできた野菜を使用した献立や季節の行事食や誕生会には本人の好みの物を提供されています。干し柿作りや行事でおやつ作りも行なわれています。利用者の生き生きとした表情が見られました。多職種との連携を図られ、安心で安全な日々の暮らしを支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームはなみの理念「その人が幸せと感じる暮らしをいつまでも」を毎朝唱和する事で理念に沿ったケアを実践している。部署会にて理念の見直しを行い、出し合った意見をケアに反映させている。	職員で考えられたホームの理念を毎朝唱和され、供されています。振り返りの時間も持たれ、実践へとつなげるよう努めておられます。r	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	傾聴ボランティア、畑作業、草取りボランティアの受け入れを行った。移動販売(鮮魚)での交流を通じて、顔なじみとなり地域とのつながりを継続している。	コロナ禍になり地域との交流が途絶えた時期もありましたが、ほぼ従来のように来ており、傾聴ボランティア、畑作業、草取りボランティアの受け入れが行われています。移動販売(鮮魚)との交流を通じて、地域の顔馴染みの方とのつながりを継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、6月、10月の2回、認知症カフェを開催した。地域の方の参加は少なかったが、支援学校の生徒さんと交流を図ることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、開催し、ホームでの様子、利用者の健康面、防災訓練、専門職との連携等の報告を行い、意見、助言、要望を頂き、ケアサービスに反映するよう努めている。9月には運営推進委員に昼食の試食会を行った。	3ヶ月に1回開催され、ホームでの様子、利用者の健康面、防災訓練、専門職との連携等の報告が行われました。意見、助言、要望を頂き、ケアサービスに反映するよう努めておられます。9月には運営推進委員に昼食の試食会が行われました。区長も参加されているので、来年度はホームで行われている認知症カフェへの広報の協力依頼も予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、様々な情報、助言を受け、ケアサービスの見直しを行っている。	運営推進会議に参加して頂き、様々な情報、助言を受け、ケアサービスの見直しが行われています。琴浦町6つのグループホームによる連絡会開催時には町の職員も参加頂き連携しておられます。(今年度は開催なし)町からも認知症カフェの広報について協力して頂けるよう要望される予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、各ユニットで身体拘束適正化検討会議を開催し、身体拘束適正化検討委員会にて事例検討を行い、ケアの見直しを行っている。年2回、勉強会を行い、意識向上に努めている。	3ヶ月に1回、各ユニットで身体拘束適正化検討会議を開催し、身体拘束適正化検討委員会にて事例検討を行い、ケアの見直しが行われています。年2回、勉強会を行い、意識向上に努めておられます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回、虐待防止検討委員会を開催している。様々なチェックリストを活用しながら課題を明確にし、改善に向けて取り組んでいる。部署会でも虐待防止についての勉強会、毎月振り返りを行っている。	法人全体で2ヶ月に1回、虐待防止検討委員会を開催されています。様々なチェックリストを活用しながら課題を明確にし、改善に向けて取り組んでおられます。部署会でも虐待防止についての勉強会、毎月振り返りが行われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面会者や家族にも目に触れるよう、玄関にパンフレットを置き、制度の広報、相談の場としている。部署会で勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアに関する方針や退去を含めた事業所の対応について不安や疑問点を伺いながら説明を行っている。利用料金改定時も丁寧に説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が思いを表せる場として、「はなみ会」を月に1回開催し、利用者が司会を務めている。家族の面会時は意見、要望を伺い、運営やケアに反映するよう取り組んでいる。	日常の会話の中や利用者が思いを表せる場として、ユニットごとに「はなみ会」を月に1回開催し、意見を聞かれ、利用者が司会を務めておられます。家族とは面会時やプラン変更時に意見、要望を伺われており、LINE電話を活用されている方もあります。3ヶ月に1度手紙に写真を付け利用者の様子をお知らせしています。家族からの意見・要望は運営やケアに反映するよう取り組んでおられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会や部署会で業務改善などについて話し合いをしている。年2回の人事考課面接があり、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。部署会等でも意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月、ユニット会や部署会で業務改善などについて話し合いをされています。ユニット会議には管理者も参加されています。また、年2回の人事考課面接があり、意見や提案を聞く機会を設け、反映させておられます。毎月の管理者会で施設長に職員からの意見も伝えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを定期的に行っている。事務所に規定のファイルがあり、いつでも確認できるようにしている。人事考課面接にて、向上心を持って仕事ができるよう目標設定している。	就業規則の見直しが定期的に行われています。事務所に規定のファイルがあり、いつでも確認できます。人事考課面接にて、向上心を持って仕事ができるよう目標設定をされ、受けたい研修や取りたい資格の聞き取りも行なわれ、キャリアアップを目指す仕組みがあります。職員の負担軽減に向けての生産性向上委員会の設置もされています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	苑内研修は集合研修とZOOMで開催され、 外部研修もオンラインでの研修に積極的に 参加している。認知症介護実践者研修、 リーダー研修に1名ずつ参加し、研修の中 での取り組みを実践した。	苑内研修は集合研修とZOOMで開催され、外部研 修もオンラインでの研修に積極的に参加されてい ます。認知症介護実践者研修、リーダー研修に1 名ずつ参加し、研修の中での取り組みを実践され ています。資格取得も推奨されており、離職率も 低く、職員は定着されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	今年度は琴浦町グループホーム会の開催 はなかった。法人内3つのグループホームで 毎月管理者会議を開催し、運営について意 見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人に会い、生活状態を把握するよ う努めている。本人の表情や会話から思いをくみ 取り、口頭や記録の伝達を行い職員間で情報共 有をしている。それらの情報をもとに関わるなか で安心につながる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	今までのサービス利用状況や経緯、困っている こと、不安に思っていることを聞き、家族が求め ていること、不安なことを理解し、事業所としてど のような対応ができるかを事前に話し合い、対応 し、家族との信頼関係の構築にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の思いや本人の状況をよく伺い、 改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋 げるようにしている。本人の得意な事や習慣が継 続できるようケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を引き出せるよう、できる 事、できそうな事を把握し、生活の中で活かされ る場面作りを行っている。共に生活し、支えあう 機会を意識して設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	3ヶ月に1回、手紙に写真を添えて様子を伝えて いる。面会時などに日々の生活の出来事や気づ きなどの情報を伝え、家族の思いを含めた支援 を行い、共に支え合う関係作りに努めている。電 話やLINE電話も利用できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から馴染みの場所や行きたい場所の把握を行いドライブを行った。正月は初詣、盆には墓参りや、短時間ではあるが自宅に帰られた方もある。藤寺や紅葉狩りの外出も行った。自宅周辺ドライブでは家族と出会うこともあり、その場で交流を持つこともできた。	日頃から馴染みの場所や行きたい場所の把握を行い、ドライブに行かれています。正月は初詣、盆には墓参りや、短時間ではあるが自宅に帰られた方もあります。藤寺や紅葉狩りに出掛けられたり、自宅周辺ドライブでは家族と出会うこともあり、その場で交流の機会がありました。受診の際に友人会われる方もあります。	外出が難しい方や家族が遠方に住まれている方は写真や電話、手紙から昔話をしていただき回想法につなげ、思いを把握されることも良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性についてアセスメントシートに記載し、職員間で情報の共有を行っている。状況に応じ、職員が間に入り良好な関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受診時や買い物の際に、退所された方の家族や、地域の方と出会うことがあり、近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンスで本人の希望や意向の把握に努めている。毎月のはなみ会でホームでの生活についての意向を把握し、本人の思いに沿った支援に努めている。日頃のコミュニケーションからも意向の把握に努めている。困難な方には本等も活用し、汲み取るようにしている。	日々のコミュニケーションの中や毎月のカンファレンスで本人の希望や意向の把握が行われています。また、毎月のはなみ会でホームでの生活についての意向を把握し、本人の思いに沿った支援になるよう努めておられます。困難な方には料理の本なども活用し、写真や絵を指して頂き、汲み取るようにしておられます。	思いや意向から生きがいにつながるような本人が理解できる目標を作られると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から聞き取った情報を引き継ぎノートに記入し職員間で情報の共有を行っている。馴染みの方に会った時に得た情報も支援に活かしている。持参されたアルバムを見ながらコミュニケーションを図り、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態、生活リズムを把握し、その方の思いを汲み取り、過ごして頂いている。知り得た情報は情報共有し、ケアに活かしている。入所の方には24時間シートを活用し、状態把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即したケアプランとなるよう、月に1回カンファレンスを行い本人の意向を確認している。定期的にサービス担当者会議には家族にも参加して頂き、意向を確認し、説明・同意を得ている。	現状に即したケアプランとなるよう、部屋担当を中心に、月に1回カンファレンスを行い本人の意向を確認され、計画作成者と素案を作られます。定期的にサービス担当者会議には家族にも参加して頂き、意向を確認し、説明・同意を得ておられます。評価・見直しは6ヶ月ごとに行われています。定期的に法人の理学療法士が訪問される機会があり、履物や福祉用具などのアドバイスをもらい活用されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ソフトを運用し、読みたい記録の検索や職員間での情報共有がしやすく、介護計画の見直しに活かしている。日々の様子を記録に残すだけでなく、口頭でも職員間で日々の気づきを共有している。記録の研修に参加したり、部署会で勉強会を行い、共有している。	記録はタブレットで入力されており、介護記録ソフトを運用し、読みたい記録の検索や職員間での情報共有がしやすく、介護計画の見直しに活かされています。日々の様子を記録に残すだけでなく、口頭でも職員間で日々の気づきを共有されています。申し送りノートも使われています。記録の研修に参加されたり、部署会で勉強会を行い、共有されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を踏まえ町内外の病院へ通院介助を行っている。また、状態変化に合わせて福祉用具をレンタルするなど柔軟な対応をしている。法人内の特養入所中の家族の面会も行い、自宅外出される方もあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売にて新鮮な魚を利用者と選んでいる。本が好きな利用者は図書館に行き、読みたい本を選んでいる。町の文化祭に作品を出品するため利用者、職員と協働で作品作りをした。定期的に本人が希望される本を購入し読まれている方もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。必要に応じて専門医の受診を行っている。異常時は早期に対応することで重症化を予防している。状況に応じて家族にも受診の同席をしていただいている。	本人、家族の希望するかかりつけ医で医療が受けられるよう支援されています。町内のかかりつけ医を中心に往診に来て頂いています。歯科も往診があります。必要に応じて専門医の受診支援も行なわれています。異常時は早期に対応することで重症化を予防されています。検査結果の確認等状況に応じて家族にも受診の同席をして頂いています。家族と受診される時は情報提供表を渡されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が勤務をされ、利用者の健康管理や状態変化に対応できるようにしている。看護師といつでも連絡体制がとれ、報告、連絡、相談をしている。ユニット会にも参加してもらい、医療面の伝達をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調変化にて救急搬送し入院となる事もある。入院中は病院と連絡を取り、様子を伺いながら早期に退院できるよう連携を図っている。	体調変化にて救急搬送し入院となる事もあります。入院中は病院の地域連携室と連絡を取り、様子を伺いながら早期に退院できるよう連携を図られています。退院時には退院カンファレンスで退院後の生活の注意点を聞かれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族へ説明を行い、同意を得ている。年1回、看取り介護事前確認書で家族の意向を確認している。また状態変化に伴い、都度、家族の意向を伺っており、往診時には家族も同席してもらい、主治医から説明を受け、今後の対応等を話し合っている。今年度は2名の方の看取り介護を行った。	契約時に家族へ終末期の方針の説明を行い、同意を得ておられます。年1回、看取り介護事前確認書で家族の意向を確認されています。また、状態変化に伴い、都度、家族の意向を伺っており、往診時には家族も同席してもらい、主治医から説明を受け、今後の対応等を話し合っておられます。今年度は2名の方の看取り介護が行われました。看取り研修も行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時手順マニュアルがあり、応急手当、連絡はマニュアルに沿って対応している。年に3回、AEDの使用方法、心肺蘇生法の研修会を行っている。部署会でも勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、防災訓練(火災想定、地震想定)を実施した。10月は地域の方にも参加して頂き避難訓練を行った。BCP計画についてもマニュアルの読み合わせを行い、変更が必要な時は見直しを行っている。	年4回、防災訓練(火災想定、地震想定)を実施されています。10月は地域の方にも参加して頂き「はなみ」単独で避難訓練が行われました。利用者も一緒に訓練に参加されています。事業継続計画(BCP)についてもマニュアルの読み合わせを行い、変更が必要な時は見直しが行われています。備蓄品の準備も行なわれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について、接遇について勉強会を行い、日頃の声かけの振り返りや意見交換を行っている。接遇に関する課題、目標を挙げ取り組んでいる。毎月の部署会で評価し、新たな目標も決め実践している。	プライバシー保護、接遇について勉強会を行い、日頃の声掛けの振り返りや意見交換が行われています。接遇に関する課題、目標を挙げ取り組まれており、毎月の部署会で評価し、新たな目標も決め実践されています。排泄・入浴マニュアルに従い、プライバシーに配慮されたケアが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やお茶タイムのメニュー、入浴時の衣類など、本人に選んでもらっている。自己決定が難しい方には、表情や言動から汲み取ったり、チラシや本から選択して頂いている。同性の入浴介助を希望される方がおられ、同性介助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの本人の生活リズムを大切にし、その時の体調や気持ちを尊重しながら支援を行っている。職員間で共有するようにもしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、移動理美容車が来て、本人の希望を確認しながら、カット、パーマ、毛染めを行っている。また、馴染みの美容室に行かれる方もおられる。今まで、使い慣れた化粧水を使用している方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回、出前をとるなど、食べる楽しみを感じて頂けるよう支援している。食事の盛り付け、後片付けなど、利用者と一緒にやっている。畑でできた野菜を使用し料理を提供している。誕生会等、本人の好みの物を提供している。干し柿作りも行ったり、行事でおやつ作りも行った。	食事は3食手作りで提供されており、食事のできる匂いや音を感じてもらわれています。月に1回、出前を取るなど、食べる楽しみ、意欲に繋がるよう支援されています。食事の盛り付け、後片付けなど、利用者と一緒に行われており、畑でできた野菜を使用した献立を提供されています。季節の行事食や誕生会には本人の好みの物を提供されています。干し柿作りや行事でおやつ作りも行なわれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年1回、管理栄養士より献立の評価を頂いている。安全に食事ができるよう言語聴覚士に相談し、個別に食事形態の調整をしている。食事量、水分摂取量はかかりつけ医に相談しながら量を調節している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、毎晩、義歯洗浄剤で義歯を消毒している。個々に合った道具を使用し、口腔内を清潔に保つように取り組んでいる。毎日、口腔内を観察し、必要があれば歯科医に診て頂いている。	毎食後に口腔ケアを実施し、個々に合った道具を使用し、口腔内を清潔に保つように取り組んでおられます。必要時にはSTの訪問もあり、アドバイスをもらわれています。義歯の方は毎晩義歯洗浄剤で義歯を消毒されています。毎日、口腔内を観察し、必要があれば歯科医に診て頂いています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながらトイレで排泄できるよう支援している。負担のない支援ができるよう理学療法士の助言を受けている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながら、それぞれの状態に応じて声掛け、誘導、介助が行われており、最期までトイレで排泄できるよう支援されています。負担のない支援ができるよう理学療法士の助言を受けておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるよう、ヨーグルトなどの乳製品やきのこ類を多く取り入れた献立を提供している。お米に麦を混ぜて提供している。歩行訓練も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望を伺いながら入浴をして頂いている。シャワー浴、清拭を希望に合わせて行っている。安楽に入浴できるよう、特浴やミストを整備している。安全に入浴できるよう理学療法士に指導を受けている。	週2回入浴されています。午後を中心に休みの曜日はありません。その日の希望を伺いながら入浴をされています。シャワー浴、清拭を希望に合わせて行っておられます。安楽に入浴できるよう、特浴やミストを整備されています。安全に入浴できるよう理学療法士に指導も受けておられます。拒否の方もありますが、日にちを変えたり、声掛けや担当を変えるなど工夫をされ対応し入られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、リラックスして入眠できるよう、その人にあった方法で対応している。寝付けない方には傍で話しをしたり、温かい飲み物を提供し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケース記録に綴り、効能、副作用を確認、理解している。服用時からの経過を職員間で情報共有し、異常がないか観察している。服薬時には2人の目で確認を行い誤薬のないよう取り組んでいる。薬の変更時は引き継ぎ、共有している。	薬局は在宅からのかかりつけ薬局の方も多く配達があります。処方箋を個々のケース記録に綴り、効能、副作用を確認、理解されています。服用時からの経過を職員間で情報共有し、異常がないか観察されています。服薬時には職員2人で確認を行い誤薬のないよう取り組んでおられます。薬の変更時は引き継ぎ、共有され、状態変化がないか注意され、何かあれば医師に連絡され指示を仰がれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる力を活かした役割を支援している。干し柿作りなど、経験や知恵を発揮できる場面作りをしている。裁縫が得意な方は縫い物をしたりさせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をききながら、ドライブやホーム周辺の外気浴を行った。正月は初詣、お盆や彼岸には墓参りに出かけたり、自宅へ帰られる方もあった。両ユニットが協力してドライブの時間を設けている。家族と一緒に出かけられる方もあった。	希望を聞きながら、ドライブやホーム周辺の外気浴が行われています。ベランダもありお茶を飲まれることもあります。正月は初詣、お盆や彼岸には墓参りに出掛けたり、自宅へ帰られる方もありました。両ユニットが協力してドライブの時間を設けておられます。家族と一緒に出掛けられる方もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は職員が行っている。買いたい物があれば預り金からお金を出し、買って頂いている。職員と一緒に買い物に出かけられる利用者や、希望の本を購入される方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話ををかけたい時、プライバシーに配慮し、ゆっくり話ができるよう配慮して話して頂いている。LINE電話を使用される方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう1日3回温度、湿度を確認し、調整をしている。利用者同士の交流が図れるよう職員が間を取り持っている。壁に季節の飾りを貼り季節感を感じて頂いている。	快適に過ごせるよう1日3回温度、湿度を確認し、換気も行い調整しておられます。リビングからも外の景色が眺められ、採光にも気を配られています。車椅子でも通りやすいよう整理整頓されています。利用者同士の交流が図れるよう職員が間を取り持たれています。壁には季節の飾りを貼り季節感を感じて頂いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを設置し、1人で過ごしたり、くつろげるスペースを確保している。食後に窓際で外を見ながらくつろぐ方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、家から使い慣れたタンスを使用するなど、心地よく過ごせるよう利用者個々にあった工夫をしている。仏壇を拝まれている方もある。	自分の部屋として利用者が使いやすく心地よく過ごして頂けるように家族の写真を飾ったり、家から使い慣れたタンスを使用するなど利用者個々にあった工夫をされています。動きやすい動線やエアコンの風向きにも配慮されています。仏壇を持ち込まれ拝まれている方もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士に相談しながら、個々に合った福祉用具、自室環境整備、リハビリメニューなど助言を受けている。職員も福祉用具を活用した介助方法を相談し、助言を受けている。		